

平成28年2・3月の文書館月替展示について
「屏風の下張りタイムカプセル
- 寄合所の資料からよむ城下の暮らし -

1 展示概要

福井市街では、たび重なる大火や水害、空襲・地震によって町の自治や町人の暮らしを知ることのできる資料が驚くほど残されていません。

文書館では、20年前に屏風の下張りからまとまって見つかった福井城下「寄合所」*の資料をこのたび整理し、公開することになりました。これらの資料からわかる200年前の人びとの暮らしを紹介します。

*「寄合所」とは、福井城下 11町組の有力町人から選ばれた組頭くみがしらが運営する町奉行所の下部組織であり、合議の場としての「寄合」がたびたび開かれていました。

この資料は、1996年(平成8)に坂井市の浅田益作よしなり氏が屏風を解体して発見。屏風には下地として、福井城下の寄合所が発信した2000点(1816年、1818～20年)をこえる文書が用いられていました。

2 期 間 平成28年1月29日(金)～4月10日(日) 文書館閲覧室

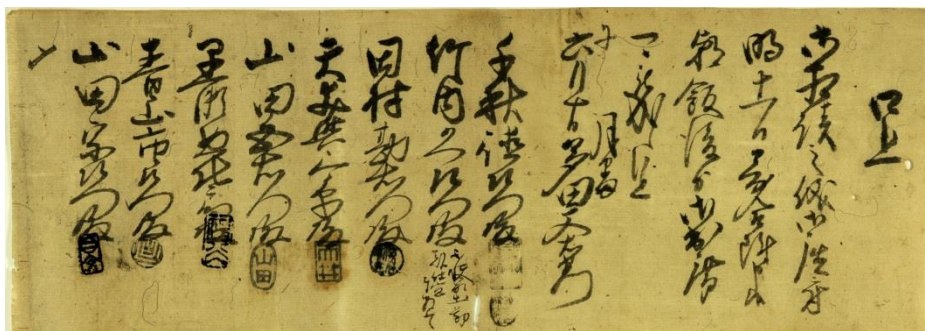
3 主な展示内容

トピック	内 容	関連資料等
寄合所から出された文書が、なぜ残ったの？	寄合所から出された文書は、各組頭の間を順に送られて、受領印(花押)を押され、最後に寄合所へ戻されたことがわかります。	
組頭たちが参上した「江端御迎」って？	組頭ら有力町人は、参勤交代で江戸から帰国する藩主治好を、城下南の江端村まで出迎えました。	
のべ人足2万人が動員された事件とは？	それは1819年11月から12月にかけての出来事でした。さて・・・。	『北越雪譜』
城下の上水は、毎年4月上旬に大掃除。	例年通り「川浚」が予定されていたのですが、ある出来事で延期。	「上水掛り近例考中」(松平文庫)
殿の御膳に上る海の珍味は？	越前名物といわれたこの珍味、6月に漬け込みが行われ、このための人足を出しています。	越前名産 雲丹のラベル
勝山の殿様の到着が夜にかかることがわかったと、すぐさま出された命令は・・・。	家いえの前に行灯をさし出すことが命じられました。こんなハレの時には、意外に明るい夜の福井城下だったのかもしれない。	行灯(福井県立歴史博物館蔵)

- ・ 「福井分間之図」1811年(文化8) 松平文庫(複製シート)

4 実習「下張り資料のはがし方」 3月9日(水)13:30-15:30 文書館研修室(定員20名程度、要事前申込み) 講師 平田正和氏((株)工房レストア代表取締役社長)

資料例



寄合所月番から出された寄合の案内状（浅田益作収集文書）

室町組

松本町組

下呉服町組

上呉服町組

一乗町組

京町組

本町組

石場町組

城番町組

神宮寺町組

木田町組